

No12 休み時間にみんなと一緒に遊べない子への対応

休み時間に友達が遊びに誘っても、なかなか加わろうとしなかったり、ドロケイやドッジボールに入ったとしても、いつの間にか抜けてしまったりする子がいます。何が背景にあるのか、お子さんの状況をよく見極めてその子が安心して過ごせる休み時間の過ごし方を考えることが必要です。

勝ったり負けたりすることや、鬼になって捕まえたり捕まえられたりすることなどの集団遊びに入りたがらない

ゲームの何が楽しいのか分からない。
臨機応変に行動することが苦手である。

人から体や手を捕まれることやボールが体に当たることがとても恐怖である。

少しの人数のグループ、ごく簡単なルールで分かりやすく楽しめるゲーム（例：室内ならトランプのばば抜きや神経衰弱、外なら、ヘビおになど）から、先生や上級生とともに遊び、何がどうなるとおもしろいのかなど、楽しさを味わえるようにしていきます。

鬼ごっこの時に鬼はぬいぐるみのような軽くて痛くないものでタッチするなど、その子に恐怖心を与えないようなルールを決める、或いは選択させるようにします。

遊びたいのに、遊びに入っても、すぐに途中で止めたり、いつの間にかどこかに行ってしまう

遊びやゲームのルール、作戦等を理解することが困難であったり、技能が伴わなかったりして、ばかにされるのが嫌で参加をやめてしまう。
一つの遊びが長続きせず、次から次へと気が散ってしまう。
家庭などに問題があって情緒不安定になり、そのために他の子と関係も安定が図られない。

このような場合、先生（大人）の介入が必要です。当該児童に遊びのルールを根気よく説明します。なかなか理解できないかもしれませんが、先生が一生懸命教えたり、一緒に楽しんで遊ぼうとする姿を見ることによって、他の子の当該児への理解がさらに高まると思われます。

どうしても他の事に興味に移ってしまい、遊びから抜けることはいたしかたないとしても、周りの子に迷惑をかけない・いやな思いをさせない抜け方を教えていく必要があります。

（例 「ぼくは、 をするので、悪いけど抜けるね」等の言い方を教える。など）

こういう子は、心の危機を訴えています。早急なかかわりが必要です。（例 その子と1対1で遊びながらじっくり話をきいてみる。など）



<友達関係に必要な能力をのばしていくためのプログラムの紹介>

- 1 キャッチボール（相手を意識してやりとりする）
投げる・受けるが苦手な子には、ドッジボールより少し小さめで柔らかめのボールで、胸でしっかり受け止めるなどの練習をします。
- 2 二人での組体操 三人での組体操（協力・役割への意識付けが図れる）
- 3 二人三脚（意思疎通の大切さ・楽しさが意識付けできる）
うまく出来ない子の場合、まずは大人と組み、足並を合わせることのタイミングや楽しさを覚えさせます。